

2014年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	物理学Ⅱ						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)・選択科目(建築コース)・選択科目(デザインコース)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・歪の種類とそれらを数学的に記述する方法を説明する。 ・応力の定義を説明し、応力テンソルの性質を導く。 ・弾性体を伝える波の速さと弾性定数の関係を導く。 ・理想気体の等温過程tp断熱過程における体積・圧力・温度の関係を説明する。 ・熱機関の原理を説明し、その効率を計算する。 						
日程と内容	9月15日 導入講義・弾性体とは 9月22日 応力とその表現 9月29日 種々の歪み・フックの法則 10月 6日 伸縮歪みと剪断歪み 10月20日 浮力 10月27日 弾性体を伝える波 11月10日 波の反射 11月17日 熱力学(導入) 11月24日 状態量と状態方程式 12月 1日 熱容量と比熱 12月 8日 熱力学の第1法則 12月15日 等温過程と断熱過程 12月22日 カルノーサイクル 12月23日 熱機関の効率 1月19日 総合復習 1月26日 定期試験						
成績評価基準	60%		実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	40%	計		100%		
	演習						
授業到達目標の達成度	到達目標は授業をとおしてすべてカバーすることができた。ただし、応力テンソルの性質のうち、その一部については結果のみを述べた。学生の到達度は、課題と定期試験によって確認できた。						
反省点	応力や歪みが座標のとりかたによって異なる表現となることの説明が難しかったであろうと反省している。もうすこし例をふやして時間をかけて説明すべきであった。						
来年度の計画	内容については、今年度からの変更点はとくに予定してない。ただし、前半の弾性体については、説明に工夫を加えたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	講義が扱っている対象は、ごく身近な物理現象に関するものである。しかしながら、ふだんから周囲で起こっている現象に注意をする習慣がないと、講義がなにか別の世界の出来事のように感じられるかもしれない。						
履修登録者数	21名	定期試験 受験者数	20名	合格者数	19名	合格率	95%